

## 次期消防基本計画検討会 議事要旨（案）

項目	第3回 次期消防基本計画検討会 議事要旨		
日時	平成22年11月12日（金）13:30～15:30		
場所	市役所3号館2階 消防局作戦室		
出席者	委員出席者：北後会長、梶木副会長 宇津委員、桜間委員、杉山委員、永松委員、柘木委員、保井委員 消防局出席者：局長、総務部長、予防部長、警防部長、センター長 本部課長級、係長級職員、企画係員		
資料	No	資料名	提出元
	1	「第2回次期消防基本計画検討会議事要旨（案）」	消防局
	2	【第1部】「神戸消防グランドデザイン2025（素案）」	消防局
	3	【第2部】「神戸消防アクションプラン2011-2015(案)」	消防局
	4	「今後の検討スケジュール」	消防局

### 【内容】

- 開会
- 資料確認
- 委員紹介
- 局長挨拶
- 資料1・2の説明

### グランドデザイン

#### 【第2章 社会潮流】

- 図6について、共働きが増え、専業主婦がいなくなるということが2025年までのトレンドとして言えるのか。今現在その傾向にあることは言えるが、確実に10年間そうなるといいにくいのでは。そのようなグラフをここに入れてしまっているのか。  
⇒防災福祉コミュニティの活動のやり方を考える上で前提となるという点では重要なデータであると思うが、将来的になると確たる証拠にはなっていない。高齢者が増加する視点とあわせて、工夫して将来像が不確定なところは抜いた方がよい。
- グラフに震災の発生した年にその旨の記述を入れると、分かりやすくなるのではないか。震災が何年に発生したか分からない市民もいる。例えば図7などは震災以降に高層建築物が増加したことなどが見て取れるようにできれば、わかりやすくなる。  
⇒グラフが始まっている年も様々であるが、震災の教訓を受けての取組みもあるので、震災の少し前から描いて、震災の年を明示すると全体として分かりやすい。
- 9ページの表について、発生年が書いてあると良い。また掲載されている災害について選ばれている基準がよく分からないが、色々あるということが言いたいのだろう。  
⇒発生年を入れるなど整理をしていただきたい。
- データは、全国どこの消防でも出せるものである。震災後、神戸で取組みを進めつつあるのが分かるデータ、現行の消防基本計画で取り組んできて伸びてきているデータがあればいい。例えば、災害時のコンビニの協力店舗数などが考えられる。今は「現象を何とか止めたい」というデータばかりで、神戸らしさがない。  
⇒大規模災害時の協力ガソリンスタンドなどのデータも考えられる。

○消防団に関する記述がもう少しあっていいのではないか。

⇒消防団は震災後どうだったか。今後活躍すべき、期待すべき組織としてももう少し記述があっても良い。13 ページ「4 阪神・淡路大震災から30年後の社会に向けて」の項目で追加したい。また、25 ページの基本方針に防災福祉コミュニティの記述があり、消防団も追記する。

### ○資料3の説明

#### アクションプラン

##### 【協働と参画】

○例えば3ページの重点施策「家庭での安全安心」について、「市民」が主語になっているが、神戸市の計画で「市民が」と主語にして書けるのか。神戸消防の計画の主語は神戸消防ではないか。同じような観点で、基本理念・方針の主語も、「すべてのひと」と「市民」になっていて、行政の方針として、みんながこうしろ、というのは違和感がある。どちらかと言えば、すべてのひとがそうである状態を目指すということで、方針というより目標という気がする。

⇒主語の話について、神戸市基本計画の審議でも市民との参画と連携が言われており、市民の主体性も中心的な話と把握している。そういう意味で全市の計画と併せて書かれていると思われるが、一方、市民から受け止めにくいのも理解できる。

⇒震災の経験から消防だけでは安全安心を守れないという教訓を得て、また震災後の防災福祉コミュニティなど取組みから考えても、市民が主語である点は理解してもらえたと考える。

⇒市民や産官学との連携なくしてできないという趣旨をもっと前段部分で強調したうえで、「市民」がやることを書く。また行政がやるべき話もあり、そのあたりが分かるような仕組みになるよう検討していただきたい。

##### 【「神戸らしさ」に“プラス”の視点】

○消防局が一番こだわりの部分は、Plus チルドレンとPlus ホスピタリティで、真正面に出して書きたいが、控えめにしているのではないか。安全安心のまちは日々の生活の中で消費されるものではなく財産であり、それを次の世代に伝えていく。安全安心が付加価値として神戸の魅力アップにつながるという部分は従来の消防を越えた新しい発想である。今回の計画は現在の市民を守るのみではなく、将来の世代や神戸を訪れる人も守るのは、新鮮だし格好いい。もっと、Plus チルドレンとPlus ホスピタリティを前に出し、基本的なものにしても良いのではないか。

⇒計画をアピールするうえでも重要な指摘でないか。もう少し全体の枠組みの中心的な部分に入れて、デザイン都市こうべにとってもふさわしくなると思う。

⇒「伝える、発信する」ということについて「ホスピタリティ」という言葉を使うのはどうか。受け止める側が理解することができるか。日本語で「Plus こどもたち」、「Plus おもてなし」でもいいのでは。

⇒市民に分かりやすいということを前提に、次回に提示いただく。

### ○資料4の説明

#### ○閉会